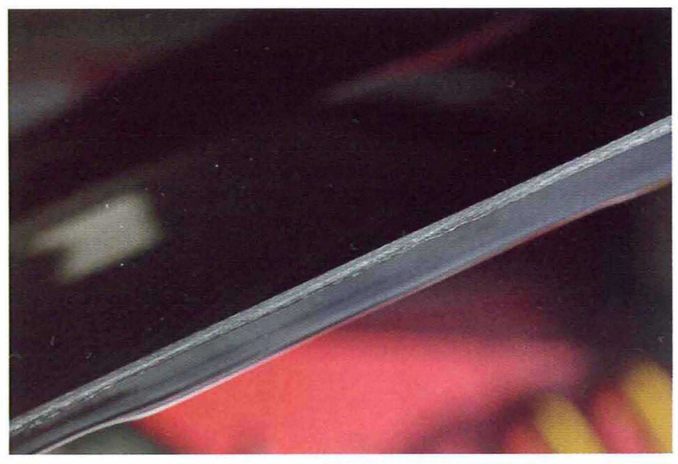
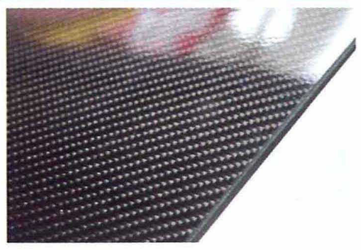
裏側にもカーボンを使用して軽量化。毛羽立たないように黒ゲル塗装を施したところもう一枚重ねずとも十分な強度が確保できた





薄さもひとつのセールスポイント。ウェットカーボン独特の光沢も美しい。当然BNR32用のみの設定。18万8000円

R32 ONE OFF PROJECT

CARBON BONNET

欲しいを現実にした超軽量!

「欲しいと思えるカーボンボンネットがない。ならば作るしかないだろう」きっかけは単純明快。BNR32オーナーが手掛けたカーボンボンネット。軽量であり冷却性能に優れなければならぬ。今、自信作が堂々完成!

㊐レイブロス　☎06・6747・3451　http://www.raybros.jp/

文:松本奈巳(本誌)　写真:増田貴広

恥ずかしがり屋さんなのでモザイクを入れさせて頂きました。まさか顔が出るとは・・・

自分で装着したいものを作り上げる「R32 ONE OFF PROJECT」の近藤代表。カーボンボンネット以外にもサスキットやマフラーをリリースする

重さ約5kg、水温5℃低下 強度もルックスも自信あり

「フロントまわりを軽くしたい。ちゃんと冷却効果も得たい」

BNR32で岡山国際サーキットを走る近藤善嗣代表は性能を求めてカーボンボンネットを探しまわった。しかし性能重視のものは高く、安いものは性能に難がある。

悩んだ末の決断。自ら「R32 ONE OFF PROJECT」というブランドを立ち上げ、レイブロスとの共同開発で理想のカーボンボンネットを作り上げることにしたのだ。

ウェットカーボン素材ながら約5kg。ノーマルの11kg弱に比べて半分まで軽量化。ドライでも4kg弱と考えれば驚異的な軽さと言える。秘密はボンネットの裏側まで総カーボンとしたこと。しかし決して強度を犠牲にしているわけではない。同じウエットカーボンでも最高グレードを使用。飛行機の外装パネルに使われているものと同じ素材と言い、破壊テストも実施している。

さらに注目すべきは冷却効果だ。4つのダクトはダミー無し。近藤代表がサーキットでこのボンネットを装着したところ、なんと水温が5℃も下がったのである。

「自分で装着するために作ったものですから妥協はありません。商売も度外視ですね。同じ32ユーザーにも自信をもって勧められます」

近藤代表は胸を張って言い切る。細部に渡って仕上がりも美しく、サーキット派だけでなく街乗りで使っている人にも違和感なく装着できるはずだ。ボンネットピンも不要。

32乗りがGT-Rのために作ったこだわりのカーボンボンネット。これ以上説得力のあるパーツは見あたらないだろう。

冷却効率を上げるため4つのダクトはすべて開口。熱を天敵とするGT-Rにとって強い味方となること間違いなしだ。デザイン面でも申し分ない!

撮影車は近藤代表のBNR32。HKSの2.8ℓキットを搭載した岡山国際サーキット仕様。ドアやガラスに至るまで徹底した軽量化で抜群の速さを誇っている。http://www.r32oneoff.com